

## インド 街頭清掃 視察報告

日程 平成26年8月22日(金)～27日(水)  
場所 インド アウランガーバード市 (デカン高原に位置する人口117万人の大都市)  
参加者 京都新洗組：坂井晃人 中元友加里 澤田樹 和服美：駿河愛  
日本を美しくする会：佐々木仁資 蛭子貴文 千種敏夫  
目的 京都大学留学生のChaitanya Bhandare氏(以後、チャイトウさん)によって、2年前からアウランガバード市内で清掃活動大会を実施、今回3回目となる清掃活動大会に参加させていただき、その実情と今後の動向を調査、また、日本の掃除文化と掃除の大切さを伝えると共に、今後の交流を計る。

8月22日(金)～23日(土)

朝、成田、関西、福岡の3空港から出発、香港で合流、インドのムンバイの国際空港をへてアウランガバードの空港に午前6時30分(日本時間 午前10時到着。乗り継ぎ時間を含め24時間の飛行機の旅となり、流石に疲れを隠せませんでした。

空港から外に出るとチャイトウさんをはじめ、今回の大会実行員会の皆さんがインド式で歓迎驚嘆かされながらインドを実感しました。



到着前の新聞記事  
参加者一人一人を紹介



インド式のお出迎え



その後、ホテルに移動し朝食後、市内のインターナショナルスクール(小1～高3までの1800名の生徒が在籍)へ、およそ500名の生徒の前で掃除に対する話をさせていただいた。

生徒たちの屈託のない笑顔と目の輝きが実に印象的で、校長先生の言葉からのリーダーシップぶりは素晴らしく感じた。

しかし、帰り際、校庭にはゴミが散乱、早速蛭子さんと一緒にゴミ拾いを。。今後の有言実行が楽しみにも思えた。



昼食後、タージ・マハルほど豪華さはないが形は全く同じビービー・カ・マクバラール廟を見学インド文明を堪能した。

その帰り際の雷雨に市内の交通は混乱、道路の排水状況は悪さ、そのインフラの遅れが浮き彫りにされていると思いました。

その後、今大会実行員会の皆さんによって交流会の場がセット、言葉の壁を乗り越え身振り手振りで親交を深め合った。

ただ、食事はカレー味辛かった!!!

8月24日(日)

朝10時からプレ掃除大会が開催、実行委員の皆さんを中心に120~130名が参加、各企業の代表者が率先して参加しているとのことだった。この周辺は工場が建ち並び、昨年の秋から毎朝、322日間、掃除を続けていると。それも、始まりは、一人の実行員から聞き、環境改善への意志の強さを感じた。。。。続けて欲しい。



掃除前挨拶



掃除開始 全て手拾い



集めてゴミ



掃除終了後



掃除終了後の継続への誓い

掃除を始めだすと、近辺の会社から社員が続々と出てきて、掃除を手伝い始める光景を目にしたのには心打たれた。

掃除終了後、よき会社、よき社会づくりに向け、これからも一生懸命この清掃活動を続けることを参加者全員が声を出し合い誓い合った。

明日はいよいよ本大会、そのためのゴミ袋も10,000枚集められ、市内9地区の掃除エリアに分配、ここにも多くの人たちが関わっていることを知り、今大会へ向けての意気込みが覗えた。ただ、心配なのは雨季のインド、天気である。



大会用に集められたゴミ袋





その日の夕刻、市民ホールにて、インドの民族音楽と舞踊を堪能、インド文化を味わいさせていただいた。

その夜は、市の最高責任者を表敬訪問夕食をご馳走になりながら、これからのインドについて話させていただいた。



8月25日(月)

朝7時、掃除大会の会場のひとつに到着。周囲を見渡しながら、ゴミによる汚さを感じていた。

徐々に参加者が集まりはじめ、掃除大会の幕開けらしき雰囲気になってきた。しかし、そこには掃除道具らしきものがない。やはり、手拾いか???とっていると、ビニル製の青い手袋とマスク配布され、掃除する雰囲気が当たり一面に漂い出し、同時に、日本からの皆も気合が入った。



準備された掃除道具はこれだけ

ここで、今大会事前に100万人掃除大会と聞いていた。全く想像もつかない掃除大会だったが、100万人いる都市で、全市民に呼びかけ行われる掃除大会であることが分かった。それでも1万人以上の人が参加しての掃除大会ではと思う。

やはり、インド！人の多さには驚かされる。

何処で集まり始めるのだろうか。。。分からない。

いつの間にか人だかりができ、そこで、チャイトウさんが、何やら注意事項含めた挨拶を始めた。

開会セレモニーか。日本からの参加者が紹介されひとりひとりに花束が手渡された。その直後かと思う男子生徒による太鼓隊に合わせ女生徒たちが踊りだす。掃除開始の合図なのだろうか、一斉に参加者が散らばりゴミを拾い始めた。その光景は、日本の街頭清掃のように整然と掃除するのではなく、ゴミ手でともかく拾いまくるものだった。日本の皆もここはインドのやり方だと、目線を同じして掃除を始めだした。



ゴミ収集車で道路を遮断



掃除始める前の大会セレモニー



何故か参加者がどんどん増えて行っているように感じると共に、周辺のゴミがどんどん拾われなくなっていく。そして、そのゴミは回収車に積み込まれていく。

約1時間の掃除時間がアツという間に過ぎ去っていった。

どこでも、人海戦術の力は凄い。このインドでは、特にその凄さを感じさせられた。でも。上流階級の方々の参加はあったのだろうか??人が多すぎて分からなかった。



緑色ポロシャツ右側の方が  
ひとりで掃除を始めたお方



掃除前



掃除中



掃除後

掃除終了後、片側道路を埋め尽くすように参加者の人たちが集まり、昨日と同じように、これからもこの清掃活動を続けて行くことを誓いあった。しかし、この地での環境改善は、相当な思いと年月が必要ではと思っていたのは私だけだろうか。一方で、少しずつ進歩しているのも確かと実感した。



まだまだこうした場所。。見れる





その後、他の掃除エリアを回った。  
それぞれの掃除エリアでも同じような掃除がなされ、学校では全校生徒が参加し校庭を一生懸命、かつ、積極的に綺麗に掃除している姿には心打たれた。  
やはり、どこの国の子供たちであろうと心は素直だなーと思った。



メインイベントである掃除大会が終わった。安堵から力が抜けた感じがした。ただ、反省点や課題は沢山あった。それは、チャイトウさんも心得ている。これから、実行委員会の皆さんが中心となり改善を重ね掃除を根づかせて行ってくれるだろうとお互いの握手を交わすなかで感じた。「チャイトウさん、ここまでよくやったよね。本当にご苦労様でした。」

その夜、ゴミ問題を扱っている市民団体のプレゼンテーションの場に招かれ参加し、インドのゴミ問題事情と対策等の話を聞いた。色々と試行錯誤しているようであるが、ゴミの分別化など、まだまだ問題は多いようであった。

最後に突然の指名を受け困ったが、掃除の大切さ、掃除のもたらす不思議な力などの話をし、「実践、実行することが一番です。」の言葉に共感を得たのは嬉しかった。

インドにとってゴミ問題は大きな課題、いくら机上論を積み重ねても解決はしません。どうか行動、実践をして行って下さいと結んだ。



8月26日(火)

最終日、今大会実行委員の中心的人物でもあるギリッシュ マグレ氏の計らいでアウランガバード市から70kmほどにあるシェウターという村に連れて行ってもらった。

初めて外国人にお目にかかるというほどの田舎の村、その村の入り口に着くと、そこから集会場まで牛が引く荷馬車に乗せられ、ちょっとしたパレード気分を味わった。

集会場には村人の殆どが私たちの来るのを待っており、ここでも、インド式の温かい歓迎を受け、大いに喜んだ。ただ、それは屋外炎天下での催し、正直、その暑さは堪えた。





その後、トラクターでマグレ氏の農場へ移動、昼食を御馳走になった。  
 そろそろ帰る時間来た。アウランガバードへ向け、また2時間車を走らせた。  
 ホテルに到着後、フライト時間までの間、つかの間の休憩が出来た。



ホテルで目にしたのが、昨日の掃除が記事となっている新聞の数々でした。  
 どの新聞も、今回の掃除活動を不思議に思いながらも、今のインドにとって大切な行為と捉えているように思えた。



この間、チャイトウさんと主たる実行委員の方々と今後、次回に向けて、何が必要で、何を最優先すべきかを話し合ったところ、誰もが真剣に耳を傾け、これからも実行し続けることを約束した。  
 掃除は、国境を超え、お互いの心通じ合える最高の行為であると感じた瞬間でした。ご苦労様でした。

午後7時50分 アウランガバードの空港を立ち、ムンバイ経由で香港空港へ、そこからまた成田、関空、福岡のそれぞれの空港に向け別れ帰国の途についた。



香港空港で最後別れ

最後に、今回のツアー中、帰国後、参加者全員が腹部に異常をきたした。強い香辛料の食が続き胃に負担がかかったのかと思うが、優しい環境に慣れた日本人の弱さが出たようにも思えた。インドへ行くには、その全ての環境に順応する体が必要と痛感している。

報告者  
 日本を美しくする会  
 専務理事 千種 敏夫